

生物多様性の保全

井関グループは、生物多様性が生み出す自然の恵み（生態系サービス）の恩恵を受けていることを認識するとともに、生物多様性保全への取り組みを環境マネジメントの重要な課題と位置付けて、井関グループの生物多様性ガイドラインを策定しています。

地域社会等の様々な関係者とも連携して、生物多様性に配慮した事業活動を推進し、生物多様性保全に努め、自然との共生、持続可能な社会の実現に向けて貢献しています。

生物多様性の保全に向けた取り組み

生物多様性保全型農業の提案(太陽光利用型植物工場)

当社は、1987年、国内にいち早くオランダ式「太陽光利用型植物工場(ダッチライト型ガラス温室)」を導入し、多くの植物工場を建設してきました。

複合環境制御装置「MINORI+」や植物の光合成能力を非破壊・非接触で計測する「植物生育診断装置」に加え、環境負荷低減につながる養液循環システムや在来種「クロマルハナバチ」による受粉作業等、生物多様性保全型の農業を提案しています。

また、先端技術を活用したモデル植物工場にて、植物工場に関する研究開発や人材育成、企業の農業参入を検討されるお客さまに対して、これからの農業の主要モデルとしてご紹介しています。



耕作放棄地再生支援

耕作放棄地の増加は、国土の保全や水源の涵養等農業の有する多面的機能の低下はもとより、病虫害・鳥獣害の発生、農地利用集積の阻害にも結びつくおそれがあることから、その発生防止、解消に向け地域や企業が取り組んでいます。

井関グループは、「夢ある農業応援団」として地域や企業の皆さまと一体となって耕作放棄地の再生やその後の栽培支援に取り組んでいます。

右の写真は、九州(福岡)の耕作放棄地の除草作業等を実施し、現在は露地野菜の圃場として利用されています。当社と中セキ九州は、農業機械の活用や栽培のノウハウ等、ハードとソフトの両面から支援しています。

